10　月　の　都　内　経　済　状　況

営業開発部

項目		天気図	コメント
現在の景気動向			10月の都内の景気は緩やかに回復している。百貨店・スーパー・コンビニエンスストアの売上は、いずれも連続して前年を上回り、増加幅も前月から拡大したが、乗用車販売は4ヵ月連続で前年を下回った。住宅着工は2ヵ月連続で減少し、公共投資は2ヵ月ぶりに増加した。輸出は16ヵ月連続で増加したが、増加幅は小幅に止まっている。有効求人倍率は7ヵ月ぶりに低下したが、高水準を持続。工業生産(9月)は3ヵ月ぶりに前月から増加した。7～9月上期の設備投資、経常損益は、いずれも前年を上回った（法人大企業）。
今後の見通し（3ヵ月）			都内の景気は引き続き緩やかな回復が期待されるが、アメリカの利上げが予想される中、中国など新興国の景気下振れが今後のリスク要因となっている。
個人消費	百貨店売上高		百貨店売上高は、前年同月比6.5%増と7か月連続で前年を上回り、増加幅も前月から3.0ポイント拡大した(既存店ベース)。主力の衣料品は、月前半の気温低下で秋冬物が動いた。また、全般的に好天が続いたことや土曜日が前年より1日多かったことなどで入店客数が増加した。第1週の国慶節連休を中心とする訪日外国人客の増加などから、化粧品、美術・宝飾・貴金属は引き続き伸びが高い。
	スーパー売上高		スーパーの売上高は、前年同月比3.3%増と7ヵ月連続で前年を上回り、増加幅も前月から1.5ポイント拡大した（既存店ベース）。気温の低下で秋冬物衣料が伸び、農産品の相場高などで食料品も堅調だった。
	コンビニ売上（関東）		関東地区のコンビニエンスストアの売上高は、前年同月比5.8%増と32ヵ月連続で前年を上回り、増加幅も前月から0.9ポイント拡大した（全店ベース）。穏やかな天候の日が続いたことで行楽需要が好調だった。
	乗用車登録台数		乗用車販売台数(軽を含む)は、前年同月比▲3.1%と4ヵ月連続で前年を下回ったが、減少幅は前月から5.8ポイント縮小した。車種別では、普通車(同▲5.4%)は3ヵ月連続で、軽乗用車(同▲9.3%)は10ヵ月連続でそれぞれ減少したが、小型車(同4.6%増)は4ヵ月ぶりに前年を上回った。
住宅建設			住宅着工戸数は、前年同月比▲14.1%と2ヵ月連続で前年を下回った。利用関係別では、貸家(同4.9%増)は5ヵ月連続で増加したが、持家(同▲4.2%)は2か月連続で、分譲一戸建て(同▲7.4%)は3ヵ月ぶりに、分譲マンション(同▲46.0%)は4ヵ月連続で減少した。分譲マンションは2ヵ月連続で大幅減となっている。
公共投資			公共工事請負金額は、前年同月比3.7%増と2ヵ月ぶりに前年を上回った。発注者別では、国(同▲16.6%)と東京都(同▲24.9%)は減少したが、独立行政法人(同382.0%増)、市区町村(同35.1%増)、地方公社(同9.2%増)が増加した。国が前年を下回るのは9ヵ月ぶり。
貿易（東京税関管内）			東京税関管内の輸出額は前年同月比3.8%増と16ヵ月連続で前年を上回ったが、増加幅は3ヵ月連続で小幅に止まった。主要地域別では、アメリカ向け(同15.1%増)、アジアNIEs向け(同3.5%増)、ASEAN向け(同6.1%増)は増加したが、中国向け(同▲3.5%)、EU向け(同▲0.7%)は減少した。
設備投資（関東、大企業）			財務省「法人企業統計調査」関東財務局管内大企業集計によると、関東の法人大企業(資本金10億円以上、金融･保険業を除く)の7～9月期の設備投資額は、全産業が前年同期比4.2%増、製造業が同6.1%増、非製造業が同3.0%増となっており、全産業と非製造業は5四半期連続で、製造業は2四半期連続で前年を上回った。
企業収益（関東、大企業）			同上調査によると、関東の法人大企業(同上)の7～9月期の経常利益は、全産業が前年同期比9.6%増、製造業が同1.1%増、非製造業が同15.2%増の増益となった。
労働需給			有効求人倍率(季調値)は1.82倍と、前月から0.01ポイント低下した。有効求人倍率の低下は7ヵ月ぶり。先行指標とされる新規求人数は前年同月比3.5%増と3ヵ月連続で前年を上回った。南関東の完全失業率は3.0%で、前月から0.2ポイント低下した。完全失業率の改善は2ヵ月連続。
企業倒産			企業倒産件数は前年同月比24.2%増と3ヵ月ぶりに増加したが、負債総額は同▲23.4%と2ヵ月ぶりに減少した。1～10月累計の倒産件数は全体が前年同期比▲10.4%で、業種別ではサービス業(同▲10.8%)、製造業(同▲10.5%)、建設業(同▲28.7%)などが減少し、卸売業(同9.5%増)、情報通信業(同0.6%増)などが増加した。
資金需要（銀行）			銀行の都内向け貸出残高は前年同月比5.0%増と50ヵ月連続で前年を上回り、増加幅も前月から0.2ポイント拡大した。増加幅の拡大は2ヵ月ぶり。

工業生産指数（季調値） （　）は前年同月比%	工業在庫指数（季調値） （　）は前年同月比%	消費者物価指数 （　）は前年同月比%	（一口メモ）　低下続く都内の失業率
7月　99.2（▲5.6） 8月　98.1（▲2.1） 9月　101.1（▲1.2）	7月　111.4（▲13.1） 8月　103.5（▲20.7） 9月　111.4（▲12.5）	8月　102.2（　0.1） 9月　102.2（▲0.1） 10月　102.3（　0.1）	東京都が11月末に発表した、2015年7～9月期の都内の完全失業率は、3.3%（男性3.7%、女性2.8%）と、前年同期に比べて0.7ポイント低下した。完全失業者数は25万3千人で、同4万7千人減少した。男女別では、男性が同4千人、女性が同4万3千人減少した。

＊工業生産指数・在庫指数、消費者物価指数は2010年平均=100。＊工業生産指数・在庫指数の前年同月比は、原数値による。

表は、都内経済の最新のデータを集めた当行独自のものです。なお、お天気マークは当部の判断です。

天気図表示の意味						
	晴れ	晴れ時々曇り	薄曇り	曇り	小雨	雨